

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	役員賞与引当金繰入	500,000	役員賞与引当金	500,000
2	当座預金	2,560,000	売買目的有価証券	2,525,000
			有価証券売却益	25,000
			有価証券利息	10,000
3	当座預金	200,000	買掛金	200,000
4	備品	1,850,000	当座預金	1,850,000
5	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			

・解説

1. 役員賞与に関する問題です。

役員賞与に関しては、株主総会において承認を受ける場合と受けない場合の 2 パターンがあるので、まずはどちらのパターンなのか判断する必要があります。

ただ、本問は問題文に「**当社は、株主総会において役員賞与の支給に関する議案の承認を受けることとしている**」とあるので、前者のパターンであると簡単に判断することができます。

■株主総会において承認を受ける場合（解答）

★役員賞与の見積り時

(借) 役員賞与引当金繰入 500,000 / (貸) 役員賞与引当金 500,000

☆参考：株主総会の承認時

(借) 役員賞与引当金 500,000 / (貸) 未払役員賞与 500,000

☆参考：役員賞与の支給時

(借) 未払役員賞与 500,000 / (貸) 当座預金など 500,000

株主総会において承認を受ける場合は、見積りに役員賞与引当金を計上しておいて、**株主総会において承認された時点で役員賞与引当金を確定債務である未払役員賞与に振り替えます。**

■株主総会において承認を受けない場合（参考）

☆参考：役員賞与の見積り時

(借) 役員賞与引当金繰入 500,000 / (貸) 未払役員賞与 500,000

☆参考：役員賞与の支給時

(借) 未払役員賞与 500,000 / (貸) 当座預金など 500,000

株主総会において承認を受けない場合は、**見積りに債務が確定する**ので、役員賞与引当金を経由すること無く、そのまま**未払役員賞与を計上**します。なお、役員賞与支給時の仕訳はどちらのほうの場合でも変わりません。

役員賞与に関する問題は重要性・出題頻度ともにあまり高くないので、上記の 2 パターンを押さえておけば十分です。

2. 有価証券の売却に関する問題です。

本問は「有価証券利息を受け取った仕訳」と「売買目的有価証券を売却した仕訳」を分けて考えましょう。

■有価証券利息を受け取った仕訳

本問は直近利払日の翌日（平成20年10月1日）から売却日（平成20年10月20日）までの有価証券利息を計上するので、以下のような計算式で利息額を算定します。

$$2,500,000 \text{ 円} \times 7.3\% \times 20 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 10,000 \text{ 円}$$

よって解答すべき仕訳は以下のようになります。なお、問題文で与えられている勘定の中に有価証券利息勘定がない場合は、受取利息勘定を使って処理します（第116回の間2参照）

★解答①

（借）当座預金 10,000 / （貸）有価証券利息 10,000

■有価証券利息を受け取った仕訳

本問は前期末に評価替えを行っているので、その評価替えを考慮した帳簿価額と売却差額を比較して売却損益を求めますが、今回は購入時まで遡って一連の流れを再確認しておきましょう。

まず購入時の仕訳ですが、問題文に「額面 ¥ 5,000,000、取得原価 ¥ 5,020,000」とあるので、額面@100円のT社社債を@100.4円で購入したことが分かります。

☆参考：購入時の仕訳（売却分のみピックアップ）

（借）売買目的有価証券 2,510,000 / （貸）当座預金など 2,510,000

次に、前期末の評価替えの仕訳を考えてみます。問題文に「前年度の決算日（平成20年3月31日）においてT社社債の時価は @¥ 101であった」とあるので、@100.4円で購入したT社社債を@101円に評価替えします。

なお、売買目的有価証券の会計処理方法として、時価法（切り放し法）を採用しているため、**翌期首に逆仕訳を切る必要はありません。**

☆参考：前期末の評価替えの仕訳（売却分のみピックアップ）

（借）売買目的有価証券 15,000 / （貸）有価証券評価益 15,000

上記のような流れにより、売却直前の帳簿価額が2,525,000円ということが分かります。一方、売却金額は問題文に「平成20年10月20日に @¥ 102で売却した」とあるので、そのまま@102円を使って算定し、@102円と@101円との差を売却益として認識します。

- ・有価証券の帳簿価額 = $2,500,000 \text{ 円} \times @101 \text{ 円} / @100 \text{ 円} = 2,525,000 \text{ 円}$
- ・有価証券の売却価額 = $2,500,000 \text{ 円} \times @102 \text{ 円} / @100 \text{ 円} = 2,550,000 \text{ 円}$
- ・差額 = 25,000 円（帳簿価額 < 売却価額…売却益）

★解答②

(借) 当座預金 2,550,000 / (貸) 売買目的有価証券 2,525,000
(貸) 有価証券売却益 25,000

最後に①②の仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。有価証券の売却に関する仕訳は、取引を分解して考えると簡単になるので、ぜひこの解き方をマスターしてください。

なお、参考までに…売買目的有価証券の会計処理方法が「切り放し法」ではなく「洗い替え法」だった場合、有価証券売却益の金額が 25,000 円ではなく 40,000 円になるので、余裕のある方はこちらの方でも考えてみてください。

$$2,500,000 \text{ 円} \times (@102 \text{ 円} - @100.4 \text{ 円}) = 40,000 \text{ 円}$$

☆参考：切り放し法ではなく洗い替え法を採用していた場合の解答

(借) 当座預金 2,560,000 / (貸) 売買目的有価証券 2,510,000
(貸) 有価証券売却益 40,000
(貸) 有価証券利息 10,000

有価証券の売却に関する問題は、第 105 回の問 2や第 107 回の問 1、第 111 回の問 1、第 113 回の問 2、第 116 回の問 2、第 118 回の問 4、第 119 回の問 3、第 121 回の問 2、第 122 回の問 3、第 133 回の問 2、第 137 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 銀行勘定調整表に関する問題です。

銀行勘定調整表の問題は、第 1 問の仕訳問題だけでなく第 3 問・第 5 問の総合問題での出題も考えられるので、中でも頻出論点である未渡小切手については必ず出来るようにしておいてください。

ではさっそく問題を解いていきましょう。問題文に「すでに掛代金の支払いとして処理されていた小切手 ¥ 200,000 が未渡しであることが判明した」とありますが、これがいわゆる「未渡小切手」です。

小切手を振り出し、支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので、当座預金の減少を取り消すとともに買掛金の減少を取り消す仕訳を切ります。具体的な解答手順としては、小切手振出時の仕訳をイメージして、その逆仕訳を切るだけです

☆参考：既に切っている仕訳

(借) 買掛金 200,000 / (貸) 当座預金 200,000

★解答：未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 200,000 / (貸) 買掛金 200,000

ちなみに、買掛金以外（例えば広告宣伝費など）について未渡小切手があった場合には買掛金勘定ではなく未払金勘定を使うことになるので、間違えないように注意してください。未渡小切手の対象が買掛金なら買掛金勘定を使って処理、買掛金以外なら未払金勘定を使って処理すると覚えてください。

☆参考：既に切っている仕訳

(借) 広告宣伝費など 200,000 / (貸) 当座預金 200,000

☆参考：未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 200,000 / (貸) 未払金 200,000

銀行勘定調整表に関する問題は、第100回の間4や第101回の間1、第105回の間4、第111回の間2、第113回の間4、第115回の間5、第116回の間5、第123回の間1、第133回の間3でも出題されています。

なお、本問は1つの取引しか出てこないのが簡単ですが、第111回の間5では2つの取引、第123回の間1では3つの取引が出てきて若干ややこしいですので、本問を解いた後にあわせてご確認ください。

4. 固定資産の取得に関する問題です。

本問のポイントは、問題文の「**割戻額 ¥ 150,000 を控除**」という部分です。

割戻というのは簡単に言うと「たくさん買ってくれたから安くしてあげるね」という**購入時の値引き**なので、購入総額から割戻額を差し引いた残額を**備品の増加**として処理します。

購入代価 2,000,000 円－割戻額 150,000 円＝取得原価 1,850,000 円

仕入割引を使って解答した方もいらっしゃるかもしれませんが、仕入割引は「掛け代金を支払期日より早く払ってくれたから安くしてあげるね」という**掛け代金支払時の値引き**です。混同しないように気をつけてましょう。

固定資産の取得に関する問題は、第101回の間3や第118回の間5、第120回の間5、第128回の間1、第131回の間3、第139回の間1、第139回の間5、第141回の間2、第145回の間1、第147回の間1、第150回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)